

会報113

墨東ゴム工業会



墨東ゴム工業会 事務局

〒131-0031 東京都墨田区墨田2丁目36番10号 ナガセケンコー内

☎03(3614)3501

ピタッと、ゼオン。

私たちは、人がいきいきとする暮らしに“ピタッ”と寄り添う
グローバル化学メーカーを目指します。

液晶用光学フィルム
新ゼオノアフィルム
大人気の大型液晶テレビ。どこから見てもクッキリ見える、迫力の大画面映像に欠かせないゼオンです。

特殊合成ゴム
油や熱、摩耗に強い特殊合成ゴム。世界の自動車のエンジン周りの最重要保安部品としてクルマに欠かせないゼオンです。

タイヤ用汎用ゴム
静かさや省エネルギーなど、タイヤに求められる環境性能。世界でトップレベルの実績を誇る、クルマ社会に欠かせないゼオンです。

合成ラテックス
ゴム手袋、化粧用パフ、不織布カーペット…。日常の身近な生活シーンで活躍する、暮らしの隅に欠かせないゼオンです。

重合法トナー
高画質・高速印字を可能にした、重合法トナー。世界ではじめて工業化し、数多くのプリンタに使われる、快適なオフィスに欠かせないゼオンです。

合成香料
香り豊かな生活を演出する、合成香料。香水やシャンプー、食品などに使用されている、暮らしの彩りに欠かせないゼオンです。

独創的技術で、社会貢献。

ゼオン

会報113

墨東ゴム工業会



墨東ゴム工業会 事務局

〒131-0031 東京都墨田区墨田2丁目36番10号 ナガセケンコー内

☎03(3614)3501

ピタッと、ゼオン。

私たちは、人がいきいきとする暮らしに“ピタッ”と寄り添う
グローバル化学メーカーを目指します。

液晶用光学フィルム
新ゼオノアフィルム

大人気の大型液晶テレビ。どこから見てもクッキリ見える、迫力の大画面映像に欠かせないゼオンです。

特殊合成ゴム

油や熱、摩耗に強い特殊合成ゴム。世界の自動車のエンジン周りの最重要保安部品としてクルマに欠かせないゼオンです。

タイヤ汎用ゴム

静かさや省エネルギーなど、タイヤに求められる環境性能。世界でトップレベルの実績を誇る、クルマ社会に欠かせないゼオンです。

合成ラテックス

ゴム手袋、化粧用パフ、不織布カーペット…。日常の身近な生活シーンで活躍する、暮らしの隣に欠かせないゼオンです。

重合法トナー

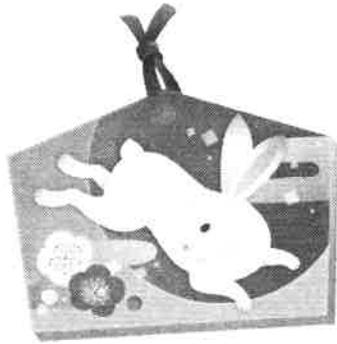
高画質・高速印字を可能にした、重合法トナー。世界ではじめて工業化し、数多くのプリンタに使われる、快適なオフィスに欠かせないゼオンです。

合成香料

香り豊かな生活を演出する、合成香料。香水やシャンプー、食品などに使用されている、暮らしの彩りに欠かせないゼオンです。

独創的技術で、社会貢献。

ゼオン



第49巻第1号
(通算113号)

目次

会長所感「墨東ゴム工業会会長を拜命して」	杉本 浩志	2
墨東ブッククラブ (35)「凍」	編集部	3
墨東ラバービュー	編集部	
●ゴム生産、ピークの8割に (3)	●天然ゴムが400円の最高値 (3)	
●加藤産商が創業100年 (14)	●宮崎利康氏が死去 (14)	
●小菅淑行氏が死去 (14)	●東部商工懇談会に、杉本氏、霜田氏出席 (15)	
●合成ゴムプラント新增設相次ぐ (15)	●東部商組の商品展示会に参加 (15)	
●協和商事の抜き型用プレス (27)	●世界のゴム消費量に異変 (27)	
会員随想		
「受け継がれてゆく心」	右川 清夫	4
「中小企業の国際化について」	堀田 秀敏	6
エッセイ寄稿		
「私のボランティア」	内山 彪	8
「インド出張は体力勝負」	加藤 進一	11
特別寄稿		
「中国に対する私の見方」(最終回)	山谷 隆	16
墨東ビデオクラブ (10)「クレイジーハート」	編集部	27
墨東行事スナップ		
10年4月 通常総会 (ベルアビス)		28
10年8月 納涼会 (浅草・小柳)		29
10年9月 講演会 (ベルアビス)		31
事務局報告	長谷川裕一	30
墨東ゴム工業会賛助会員名簿		巻末
墨東ゴム工業会会員名簿		巻末

老防の精工

精工のゴム薬品

加硫剤 **MS-R** 素練促進剤 再生剤 **MR-906**

共架橋剤・硬化剤 **ハイクロスM** 表面きれつ防止剤 **SUNTIGHT**
サンタイト S.R.Z

老化防止剤 **NONFLEX** オゾン劣化防止剤 **OZONONE**
ノンフレックス オゾン 3C・6C・35、EX、EX-3、EX-SK

●老防・加工助剤の専門メーカー

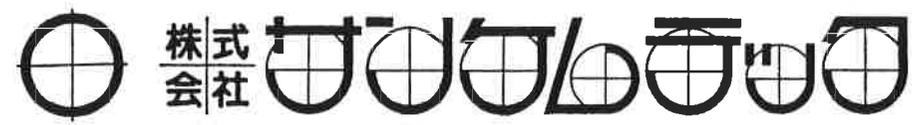
精工化学株式会社

東京営業所 〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-6 荒木ビル2F
電話 (03) 3254-2771

大阪支店 〒541-0045 大阪市中央区道修町1-2-2 花房ビル
電話 (06) 6231-4361

老防の精工

有機 無機 ゴム用配合薬品
各種ゴムマスターバッチ
ゴム・PVC・ポリオレフィン
ゴム用防着剤・離型剤・加工助剤(ネオコート)
各種顔料



■本 社 〒111-0036 東京都台東区松が谷1丁目9番10号
マテックス第2ビル10F
TEL 033847-9971 代 FAX 033847-9975

■大阪営業所 〒541-0045 大阪市中央区道修町1-2-2 花房ビル
TEL 066222-2297 代 FAX 06222-5708

「墨東ゴム工業会 会長を拜命して」

……会長所感

墨東ゴム工業会会長 杉本 浩志



今年度より、右川清夫会長からバトンタッチし、会長をおおせつかりました杉本です。歴代会長の方々のように人脈や知名度があるわけでもなく、私のような者に務まるのかと不安を抱きながら、半分は理事や幹事の方々が応援してくれているのだから皆さんと協力してやればなんとかなると楽観的に受け止め、お引き受けした次第です。

さて、本業のゴム業界の景況は相変わらず停滞しています。ゴム需要の減少で受注量も減り、先が見えない状況です。こんな中、私共ゴム屋のおやじ達はどうしたらよいか。いまどきの企業経営者の観点で見ますと、赤字を出さないために、人員調整、仕入れのコストダウンなどで経費節減したり、売上げを上げるよう営業力をつけたりという具合でしょうか。

こんな時は、戦後から昭和を生きてきた先代、先々代（親父や爺さん）だったらどうしただろうかとお考えます。

おそらく長年の間には同じような不況が繰り返されていたと思います。そんな時うちの爺さんは、物怖じせずただひたすらお得意先様を大事に、社員も大事に、仕入先も大事にすることに徹していたのではないかと。そして、自社の技術力を高めてお得意先様に喜んでもらうこと、これに尽きるのではないかと思うのです。

そうすることで、結果的には世の中に必要とされる会社で居続けることが出来る。会社を取り巻く全ての人々に必要とされていれば会社がなくなるわけがない。そう信じていたのではないかと。先が見えないからこそ創業者の理念に立ち返り、物怖じしない喜ばれる経営者になることを目指したいと思います。工業会も同じです。初代会長の創立時の思いに立ち返り、皆様と共に実のある会を目指すことに努力したいと思います。

（金星ゴム工業社長、10年12月）

墨東ブッククラブ第35回



「百の谷 雪の嶺」という。題材の鮮烈さと、作者の透徹した目が光る。沢木ノンフィクションにまたひとつ傑作が加わった。著者沢木耕太郎、新潮文庫、552円。

（編集部）

凍

この本は2005年9月に新潮社から出版され、2008年12月に新潮文庫に入れられた。文庫に入ったときすぐ買ったのだが読まずに本棚にしまっておいた。何故か。実は僕（評者）はおいしそうなものはすぐ食わず、とっておいて後でゆっくり食べたいという性癖があり、本についても同じ傾向を示す。良い本、楽しい本は「とっておく」ことが多いのである（そのまま読まないことも少なくない）。

今回紹介するのはそういう本の一冊で、このほど落ちていてゆっくり読んだ。そして読書の面白さを堪能した。内容はわが国最強のクライマー（登山家）とも呼ばれる山野井泰史氏と、

沢木ノンフィクションの傑作

奥さんで同じく登山家の山野井妙子さんがヒマラヤの難峰「ギヤチュンカン（一九五二匹）に登る話である。

紙数の関係で内容について細かくふれることはできないが、二人を襲う壮絶な困難と、絶望的な状況。そこから脱出する体力や精神力に、読者は深い感銘を覚えずにはいられない。さらに読者は山登りとは何か、人間の絆とは、人生の価値とは……まで思いを馳せてしまう。すぐれた著作は人の精神生活を豊かにするという見本のような本である。

文芸誌「新潮」に掲載されたときのタイトルは

「百の谷 雪の嶺」という。題材の鮮烈さと、作者の透徹した目が光る。沢木ノンフィクションにまたひとつ傑作が加わった。著者沢木耕太郎、新潮文庫、552円。

ピークの8割まで回復 10年のゴム製品生産

09年に世界的な不況の影響で落ち込んだゴム製品の生産が、10年は景気を持ち直しにもない回復した。自動車生産の増加が、ゴム製品の増産を促した。

ゴム報知新聞によると、ゴム製品生産・出荷実績、1～10月累計生産量は118万トンで前年同期比23%増、出荷額は1兆8322億円と同23%増とともに大幅に増加した。

主な製品を見ると、自動車タイヤは生産量が同22%増、出荷量が同23%増。ゴムホースも生産量が同38%増、出荷量が同32%増と大幅な伸びを示した。ゴムベルトは生産量が同6%増、出荷量が同13%増加した。

順調に生産が回復しているゴム製品だが、リーマン・ショック前の08年1～10月と比較すると生産量が85%、出荷量が86%とまだ8割の水準にとどまっている。（ラバービュー1）

天然ゴムが400円に 10年12月、最高値付けする

天然ゴム価格が急騰している。東京工業品取引所のRS S3号の期先限月価格が、10年12月13日にkg当り396・4円まで上昇した。これまでの高値だった1980年2月13日の388・9円を30年10カ月ぶりに更新するともな、1952年12月に開設された東工取のゴム市場上場来の最高値をつけた。

さらに翌14日には、期先限月価格が国内史上初の400円を突破する400・1円まで上昇した。リーマン・ショック後の暴落により、一時99・8円と、100円を割り込むまで下落したが、この2年の間で天然ゴム価格は4倍も高騰したことになる。

高騰の背景には、新興国（中国など）においてタイヤ向けを中心とした天然ゴム需要が旺盛であること、それに対してタイなどの主要産地が供給不安を抱えているため。また投機資金の流入も理由。（ラバービュー2）

「受け継がれてゆく心」

《墨東ゴム工業会で私が学んだこと》

(株)右川ゴム製造所会長 右川 清夫

墨東ゴム工業会は三木会（総会も含む）と会報発行を柱とした、技術、経営、労務の勉強会、工場見学会（海外も含む）などを組み合わせ、バラエティに富んだ事業スケジュールで受け継がれてきました。

初代会長、長瀬泰吉氏は、会設立もない昭和40年7月の会報12号で「事業に当たるものは、地道な経営方針で昨今の不況を乗り越えよう。各企業はそれぞれ自分の力、自分の努力で経営を進めて行かねばならず、他力本願の安易な気持ちで対処していると、金融の緩んだ現在とは言え、選別融資を厳しくする金融機関からの借り入れは到底望めない」と述べて、我々会員に注意を喚起しておられました。

こうした自助努力の精神が、会の歴史を繋いできたと思います。

墨東ゴム工業会の毎月の三木会はゲストスピーカーを招くこともあったし、会員同士情報交換で盛り上がることもありました。

三木会でお招きしたゲストで私の心に衝撃を与えた方は、当時ま

がいたために逃げられない。相田さんが泣くとあんちゃんも泣き出しちゃうだろうと、兄弟励ましあって頑張っちゃった。すると、なんて強情な奴だつてまた叩かれる。

その兄の働きで相田さんは旧制の中学に行かせてもらえたのだそうです。父親は日本刺繍の職人でしたから、相田さんの兄貴はオヤジにならつて小学校を出ると刺繍屋の職人になりました。それで弟の相田さんを中学に行かせてあげたのです。

その兄ちゃんが兵隊に行く前に、裸電球の下で相田さんは勉強、兄貴は夜なべです。その時こう言われたのだそうです。

「みつおなあ、お前も中学校の上級生だなあ。中学校というところは、下級生を殴るという噂を聞いたけれど、無抵抗な下級生を殴るのは一番野蛮だぞ。無抵抗なものを絶対に殴るなよ」というんです。

紙芝居のおじさんに殴られたことが身に沁みていたんでしようね。でもそのことは、一言もいってませんでした。かりに自分がどんな立場になっても、それを利用して後から来るものに威張るような人間には、ならんでくれ」と言うんです。

「どんなにひどくても、卑しい根性にならないでくれ、貧すれば鈍するというけれど、貧しくても鈍しないでくれ、貧すればどんなに貧しくても、惨めつたらしい気持ちを持つなよ。どんなに苦しくても卑しいことはしてはならない、と。」

独特の栃木なまりの相田節での語り口が、私も墨東ゴムの会員の心に響き、その後の会の運営に少なからず影響を与えました。

感動した霜田ゴム工業の霜田義久会長（当時まだ社長）から、いくらかかってもいいから、一筆、揮毫してもらえよう計らってほしいと頼まれていたのですが、果たせぬまま、まるで木の枝が折れ

だ今ほど有名でなかった相田みつお氏です。昭和60年6月20日、生憎の雨の三木会で、足利から東武電車で来られた先生を浅草駅北口改札で迎え、当時白髭にあった三笠会館の会場までお連れしました。その時の話は今も心の奥に焼き付いています。

相田さんには2人の兄さんがおられました。子供のころあんちゃんとはよんでいたのだそうです。すぐ上のあんちゃんが相田さんが3才のころよく紙芝居に連れて行ってくれた。ところが家が貧しかったので飴を買う金がなかった。家に帰ってくると貧しさゆえの夫婦げんかの絶えない家庭だった。

しょっちゅう兄に連れられて、当時原っぱでやっている紙芝居を、ただ見をしていた。そつと後の方で飴を買わずに見ていた。相田さん、それが子供心に嫌だったようです。毎日のことですから紙芝居のおじさん、堪忍袋の緒がきれて、小学校3年の兄さんが、前に引きずり出されてしまったのです。

あんちゃん逃げてしまえばいいのにと思っても、小さな相田さん

るように相田さん、突然亡くなられてしまったのです。

現在、有楽町の東京フォーラムの地下1階に相田みつお記念美術館があり、生前のよすがを偲ぶことができます。

企業業績の低迷の最大の理由は、経営のやりかたという企業の内因ではない、外部環境の悪化だと思います。この認識は企業人たるものの錯覚であり甘えです。

そもそも景気とは、他から与えられるものではなく自らの努力でつくって行くものです。企業経営者の最大の使命は、社員と顧客の幸せを図ることであると、平成18年4月の三木会で（ロッテ会館）ゲストスピーカー坂本光司氏から学びました。

まさに墨東ゴム工業会初代会長、長瀬泰吉氏の他力本願の甘えの心が企業を滅ぼすという戒めの心に通じています。

4代目会長、金星ゴム工業の杉本浩志会長に心よりエールをおくと共に、墨東ゴム工業会が、世間様から更に必要とされる団体に成長されることを祈り、わたしが学んだ墨東ゴム工業会での思い出について、その一端を綴ってみました。

金星ゴム工業を創業された初代、お父上である2代目（現会長）さんには、陰に陽にご指導頂きました。立派にその後を継がれている杉本墨東ゴム会長もその心を心として、社業のご発展とそれを通じてゴム業界に尽くされんことを願うものであります。

（右川ゴム製造所会長、2010年12月）

「中小企業の国際化について」

《ライバルはアジアの中小メーカー》

ホットイーポリマー(株)社長 堀田 秀敏

リーマンショックの荒波をなんとか乗り越え、今は最盛期まではいかなくても仕事量がかなり戻ったところも多いと思います。しかし私ども中小業界を取り巻く環境は大変厳しいものがあると言わざるを得ません。

産業の空洞化及びアジアの高成長。特に我々の業界は車産業に依存している割合が多い。その車産業が電気自動車等エコカーへの転換の流れで、今後部品点数がかなり減るという現実。そしてなんと言っても若者の車離れや人口減少社会の到来等で、国内需要は間違いなく減っていくだろうという現実があります。

それは我々の業界だけではなく、日本の中小企業の物づくりが今後大変厳しい環境に晒されるということにほかなりません。

そこで生き残っていくためには各社、他社との差別化できる何かを磨いていくしかない。

それは、独自技術や独自製品の開発、独自のサービスや独

自の販売方法の確立、新しい成長産業へ販路のシフト、そしてQDC等で差別化して生き残っていく。それはすでに会員各社も努力されていることであり、これからも続けていかなければならないことです。

ただ、グローバルに市場を見た場合、ものすごいチャンスがあるということも事実です。

しかし、我々中小企業は今まで貿易実務も苦手だし、海外留学の経験のない経営者は私もそうですが英語もしゃべれない。社内にそういう人材も少ない。そこで技術が高く、品質が良くても海外に売るのは難しいと考えてしまう。言葉の問題、与信、貿易実務等さきりありません。

一方近くの国、台湾や韓国の中小企業は、中国市場向けなどを中心に積極的に打って出ている企業が多いように思えます。それは私たち日本の製造業は今まで国内に仕事がそこそこあったからであり、もともと市場が小さかった彼らには当

たり前のことなのかもしれません。

今年は中小の国際化元年という言葉が新聞紙上で読みました。

大手企業では英語を社内公用語とする企業も出てきており、国や自治体の後押しもこれから増えそうです。間違いなく時代は変化しています。

中小企業の国際化は海外に物を売ることと海外で物をつくるという両面がありますが、どちらにチャレンジしても中小企業の国際化になるのではないのでしょうか？（もしかすると中小企業のアジア化という方がしっくりくるかもしれません）

このどちらか、つまり売ること、つくることに難しい問題があっても、会社を継続していくひとつの手段として可能性を探り、少しでもチャレンジしていくべきだというのが、最近の私の考えです。

このような考えのもと、恥ずかしいですが私は2010年の4月から英会話を習いに週に一回通い始めました。

その程度ではまったく英語の会話力は上達しないのですが、社員に対し会社を変化させていくというアドバルーンの意味もあります。

会社としては、英語と中国語をしゃべれる営業をそれぞれ一人ずつ雇用しました。それは「アリババ・コム」という世界最大のB2Bサイトに2010年4月頃登録したところ、海外から問い合わせが少しずつ来るようになったからです。これから失敗も多くするだろうし、まったく売れないかも

しませんが、ともかく弊社は海外に製品を売ろうとチャレンジを始めたわけです。

会員各社、色々経営の考えがあるのは当たり前のことです。ですがもし、このようなことに興味のある会員の経営者や、すでにチャレンジされている経営者の方がおられましたら、是非、情報交換したいと思っております。

我々のライバルは、もはやアジアの中小企業なのですから、共にもがいていきましょう。

(2010年12月)

「私のボランテイヤ」

——いのちの電話相談——

(株)ブリヂストン元副社長 内山 彪

先日右川会長さんから、今やっているボランテイヤについて何か書いてくれないかと電話を頂きました。

会長さんと私は1959年ブリヂストン入社同期生であり、在任中も色々とお世話になったので、はい、分りました」と二つ返事で受けたものの、さて、何を書けばよいか、グジグジと考えているうちに二週間がさつと過ぎてしまいました。これはいかん!とマージャンの約束も一つ断って机に向かつております。

私がブリヂストンを辞めたのは2001年、最後はベルギーに本社を置く「ブリヂストン・ファイヤーストン・ヨーロッパ」の仕事でした。それも終わり、さあ、これからはやりたいことが出来るぞ」と心の中では色々な思いが飛び交いました。

幸い学生時代も会社でも友人は多かったので、これから生きていく間は無心な子供時代に帰ったように時間を過ごしたいと張り切る一方、折があれば未経験の

ことをやってみたいという気持ちもありました。

折も折、確か2004年1月と記憶しておりますが

新聞の

「自殺防止の電話相談員募集」

という記事が目にとまりました。

自殺したい人とはどんな人達なのだろう?電話で防ぎ止出来るのか?色々考えた末相談員に応募してみることにしました。

皆様も新聞紙上で自殺者が12年連続して3万人を越えたという記事をご覧になったと思います。ですがあまり身近なこととは感じておられないでしょうか、今日は一寸その防止活動の現場報告をさせて頂きま

す。

私の所属する団体は「認定NPO東京自殺防止センター」と言います。高田馬場の事務所に3本の電話ラ

インがあり、一年中夜8時から翌朝6時まで悩んでいる人の電話相談に応じています。

相談員は約60名、年齢層は学生から私のような老人までですが、先ず最初に、聴くことに徹して自分の意見とか助言はしない」という訓練を受けます。会社生活で喋りまくっていた私などは羽をもぎ取られたカラスみたいなもので、受話器の前で目を白黒、口をパクパクするだけでしたが、とにかく6ヶ月の訓練にパスし2005年1月から電話相談員としてスタートしました。

相手の顔も名前も分らず電話線一本の勝負ですから神経をすり減らします。どんな電話が掛かってくるだろう、今すぐ自殺したいと云われたらどうしよう、と、前日はなかなか眠れなかったのを覚えています。

時間帯は夜8時から翌朝6時までですから当然真夜中の徹夜みたいなもので、月3回とはいえ体力的にも相当な覚悟が必要です。

後ほど電話の内容につきましても少し触れますが、その前に我国の自殺について少し話しておきます。

我国の自殺は1998年3万人を超えてから昨年まで12年間、3万人を割ったことはありません。この自殺者の数については世界共通の基準で10万人に対し何名と表示されますが、我国は昨年で26人でした。旧ソ連の国々が約45人で最も多く、日本は先進国としては非常に多い方で、欧州は平均は8〜9人、アメリカも8人くらいです。

日本の3万人という数は地方の一寸した市、町に相当するので1998年から12の市、町が消失したと考えて下さい。加えて自殺未遂者がその20〜30倍あり、関連する家族を入れると直接自殺問題に関わる人は恐らく300万を下回らないだろうと云われています。

それでは自殺しようと思いつめている人、所謂自殺願望者とはどのような人達なのでしょう。

普通私達は色々な壁にぶつかり追い詰められても、人間は本能的に生きるように生まれているのですからそう簡単には自殺しようという気持ちになるものではありません。

結論を先に申し上げますと、自殺願望の人の多くは最後は「うつ病などの精神疾患」に陥りそれが背中を押すようです。例えば多重債務、一家族や友人とのトラブル―失業と、不幸が続いても大多数の人は何とか切り抜けます。ですが結果としてうつ病に陥ると自殺念慮にとらわれるようになるようです。

私達にかかってくる電話はそういう人からのものが多く、自殺を減らすには精神疾患への対策をしっかりやらねばならないと痛感しているところです。

最近、政府も事の重大さを認識し、自殺者減少のため年間100億円の予算を組み担当大臣が電話相談センターに來たりしています。まだまだ民間活動頼りで国としてやるべき仕事の仕分けが十分出来ていないように思われます。

私達の電話相談にしても、自殺願望の人の気持ちを一時的に抑える効果はあっても抜本対策ではありません（それでもその電話があるから今まで生きてこれたという声も多くありますが）。

当然のことながら国は自殺願望の人が減るような根本的な対策を講じてゆくべきであり、国でなければ出来ない部分については国が責任を持って早く動いて欲しいと思っています。

具体的に述べますと、何と言いましても自殺の殆どに関わっているうつ病対策が第一でしょう。うつ病患者者は100万とも130万とも云われていますが早期に薬で治る人は約70%。残りが長期治療者になります。が、極論するとこの30%が自殺者予備軍と云えます。

5年、10年と病気が長期化するにつれ職を失い、家族や友人を失い、うつ病独特の体の不調を覚え孤独と絶望に陥るのでしょう。そういう人達に対しては薬だけではなく心のこだわりを聴いてあげることが非常に大切です。現に私達のセンターもそういう人達からの電話を多く受けています。

従って大学の精神科医養成も現在のように薬中心でなく、患者自身の気持に立ち入る治療法をもっと導入しなければなりません。そして精神科医師の数、質、地位の向上を図って頂きたい。これは当然国としてやるべきことですが残念ながら未だ進んでおりません。

二つ目は弱いものを助けると標榜しながら、実際に

はプライバシーとか個人権利の守秘などの名目にこだわって弱者を救っていない世間の風潮を正してゆくと、これも国でなければ出来ません。

家庭内暴力、子供に対する暴力、いじめなど社会の歪が自殺につながり、新聞紙上に報道され識者のコメントなど載りますが、一週間もすれば皆の頭から消えてしまいます。

電話相談の現場に立つと、弱者を助けなければ立派な社会は成り立たない、という国民の気風が消滅した今、如何にマスコミが騒ごうと、如何に識者が叫ぼうと弱者は救われない現実がよく分ります。

これこそ教育の抜本見直しを含め、国がやらねばならない最重要の自殺防止対策ではないでしょうか。

そういう国としての施策が進められるなかで我々民間のボランティア団体がやるべきことは、自殺願望の人の気持ちを少しでも聴いて気持を和らげること、それから実際の関係者即ち自死遺族の気持のケアと自殺未遂者が再び自殺を試みぬようケアしてゆくことでしょう。

人の心は夫々で実際にはなかなか思うようにはゆきませんが、私もボランティアを通じ一人でも命を救えるよう頑張つてゆきたいと思っています。

末筆ですが皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。
(2010年11月)

「インド出張は体力勝負」 インドのゴム業界、インド人気質など

(株)加藤事務所社長 加藤進一

当社(株)加藤事務所は、現在インドに合弁会社を設立し、そこを通じてゴム材料の販売とゴムコンパウンドの生産販売を始めています。毎年5回程度インドに出張していますので、今回はインドの現状についてお話しします。

1. インドの人口は11億人ぐらいと言われています。中国の13億人にかなり近く、かつ中国のように一人っ子政策を採っていませんので、これから人口が増え続けます。2050年ごろには世界一人口の多い国になります。

インドはどこかの大都市にその人口が集中しているわけではなく、地方にも満遍なく人がいるというのが実感です。

ゴム産業についてはゴム成形メーカー、ゴム材料メーカーは「インドゴム年鑑」の会社リストによると5000社近くあります。中国の8000社よりは少ないですが、間違いなくゴム会社の数でも世界No2でしょう。ちなみに日本のゴム会社は1000社以下です。

2. インドは広い国です。みなさん日本の地図帳のイメージで考えてしまいますが、実際には西ヨーロッパとインドはほぼ同じ広さです。つまりスペインからギリシアまで、イタリアから北欧南部までの面積と同じ広さなのです。

ですから、インド国内を飛行機で移動する時に、たとえばデリー(インドの人はだれもニューデリーとは言いません)から南部チェンナイまで飛行機で2.5時間かかります。

国内航空会社も6社ほどあります。国営系でサービスの悪いAIR INDIA航空と民間系でサービスのよいJETAIRWAYS航空(ともに日本に乗り入れあり)、及びビル会社が経営するKINGFISHER航空、それに安さが魅力のIndigo、SPICEJET(どちらも名前がすごいですが)が毎日数多くの飛行機を飛ばしています。

ただ、午後から夕方の便は1時間ぐらいの遅れは当たり前です。朝6時発の航空機もけっこうあり、私も朝5時まで空港に到着をよくやっています。

鉄道も結構全インドをカバーしており、地元の人々の移動は鉄道かバスになります。大都市の近郊列車はエアコンがないためいつもドアを開けて走っています。山手線、京成電車がドアを開けっ放しで走っているようなものです。

3. インドのモーターゼーションはすでに始まっています。最近では自動車の生産量が年間300万台近くにりました。小型車が多いのが特徴です。昭和45年ごろの日本の自動車産業のようなものです。毎年急速に自動車産業が伸びており、年率20%UPぐらいの感じですが。

当社のインドでの合弁会社インドジャパンポリマーズ社の合弁相手でありインドのゴム原料大手商社であるRAMCHARAN社も、毎年10億円ぐらい売り上げが増えているようです。

インドのゴム産業は、タイヤメーカー大手5社(MRF TIRE、APPOLO TIRE、CEAT、JK TIRE、DUNLOP、BIRLA等)とヘルトメーカー(FENNER等)、自動車部品メーカー、靴メーカー、工業ゴム部品メーカーに分かれ、業界団体として「全インドゴム工業会」があります。

自動車部品メーカーはまだ数が少なく、どこも1社あたりの売り上げが30億円程度、人数500名程度が最大手クラスのゴム部品メーカーとなります。どちらからというとなら日本との業務提携は少なく、インドで一般的にいうことですが、ヨーロッパのゴム会社とのつながりが多いようです。

ゴム材料は自社練りが基本で、ゴムコンパウンドメーカーはほとんどなく、またその技術は更正タイヤのト

いえませんから、それからどうやってこちらの主張をOKさせるか頭を使います。ですからインド出張は体もですが、頭も相当疲れます。

インド英語は独特の発音、言い回しがあります。いまでもボヤツとしていると、相手のいうことが英語に聞こえませんが、根性をいれて相手の話を聞くとやっと英語に聞こえるというわけです。

もともと一週間インドに出張しているとインド英語がこちらの英語の中になまりのように移ってしまい、こちらの発音が変わってきます。数の数え方で10万という単位はLAKHがあり、100万は1000000と書きます。

6. 意外にわが国のゴム業界はインド進出が遅れています。大手ゴム部品メーカーはどこも今後の大きな市場となるインドに対して、進出を検討中、FIS中(フイージビリティースタディ、実現可能性の検討中)とのことです。進出決定、201X年に進出決定という話が少いのです。

私なりの分析では、

①インド市場で販売するゴム製品のターゲット価格が安すぎて、進出しても採算がとれない。自動車メーカーは販売価格60から80万円程度の自動車をインドで生産しようとしていますから、調達するゴム部品への要求価格がタイや中国市場よりもずっと安い。さらに日系自動車メーカーはある程度インド現地メーカー製ゴム部品でもOKと考えているので、相当無理してコストダウンしないとゴム部品が売れない(FISをしたが役員会で差し戻しになったという話が多い)。

②駐在させる人がいない。どの社員もバンコック、シ

レットラバー練りレベルで、自動車ゴム部品や重要保安部品を製造する品質レベルではありません。

4. インドはどちらかというとヨーロッパのほうを向いています。仕事も子供の留学先もまずはヨーロッパを考えます。英国植民地になつてきた影響もあると思います。日本に対しては親日感情をもっています。これは当社が仕事をしていて肌で感じます。ここが中国への進出とちがうところです。

日本品のイメージはSONY、HONDA、PANASSONICと高級品のイメージを持っています。最近ではLGやHYUNDAIがかなり追いかけて来ています。ただ仕事となるとヨーロッパを優先するような気がします。

5. インド人は英語が上手です。第二母国語なのでから当たり前ですが、さらに議論も好きです。1時間でも2時間でも英語での議論が続きます。こちらからみるとどっちでも結論は変わらないだろうと思うのですが、相手は納得するまで議論を挑んできます。

さらに会社幹部の方は論理的にあつていないと納得しません。どうしてそれをする必要があるのかといつも聞いてきます。アジア的に、なんとかそこはわかるだろう。なあなあで説明するけどわかってくれ。とにかく今回はOKしてくれ。貸し借りだ。などという議論はまず駄目です。

インドに進出した日系の駐在員、長期出張者の話を聞くと、どなたも同じ苦労をしています。1時間議論を続けていると、論理的には相手の言っていることのほうが正しいと思うことが数多くあります。そのままOKとは

ラチャ(タイ)、上海、広州であれば赴任OKといいますが、インドは勘弁してくださいという社員がほとんどです。確かに一般レストランに酒なし、女性と酒を同席で飲める店厳禁、カラオケ屋なし、という環境です。上場大企業を除けば、インド大好き人間だけが駐在している国というウワサもあります(確かに当たっている)。

③インド人が英語で議論好きですから、まともにその議論に入り、相手を納得させられる人材がいらない(そのとおり、私も苦労しています)。

④会社幹部がインドに対して食わず嫌いの感あり(汚い、くさい、カレーしかないのイメージです)。

⑤遠い。確かに成田からバンコック、シンガポール、香港で乗り継ぎして計12時間ぐらいかかり、タイとは違います。インド出張は体力勝負で、いまでも同行者はだいたい3割確率でお腹をひどくこわします(1日トイレ10回)。

7. そんなインドですが、これからのゴム産業を考えると避けては通れない進出先になると思います。インド進出はまだ競争相手が少ないと考えればよいのです。苦労はどこにでもあります。

私もインド大好き人間ではありません。インドでの仕事はタイ、台湾、シンガポール、米国出張に比べて気が重く、体力的にもきつい出張になります。しかし、まだだれもやっていないことをやってこそ価値がある、と自分に言い聞かせて、インドでの仕事を進めています。

皆さんも是非一度インドのゴム産業を見て来てくださ

(2010年11月)

加藤産商が100周年

10年7月、記念式典開く

加藤産商（加藤文男社長）が創業100周年を迎えた。10年7月31日、港区の「八芳園」において、内輪で記念式典とパーティを開催した。

ゴム産業草創期である明治（1909年）に創業し、わが国ゴム産業と共に歩んできた同社の歴史は、商社としてゴムメーカーの要求に全力で素材・技術・情報を提供し続けてきた100年でもあった。

同社は現在、どこの系列に属さず、独立資本としてスピード感ある経営が出来る。関連に粉末硫黄製造の鶴見化学工業とマスターバッチ製造の埼玉ゴムを持ち、国内6カ所の営業拠点、海外においては5カ国、事業所数で11カ所に工場や営業拠点を擁する。グループ年間商、約450億円。



(ラバービュー3) 記念式典での「鏡割り」(7月31日)

宮崎利康さんが死去

福和ゴム商社の会長

10年1月30日、福和ゴム商社会長の宮崎利康さんが死去した。82歳。偲ぶ会が4月9日午前11時30分から東京都台東区の東本願寺慈光殿で開かれた。仕入先や同業者、業界団体、交友関係、親族など約150人が集まり故人の遺徳を偲んだ。

宮崎さんは昭和3年東京生まれ。明大卒業後、父親が経営する天然ゴム商社、福和ゴム商事に入社した。昭和45年社長に就任、以来35年にわたり同社の指揮をとった。業界活動にも尽くし、昭和63年から東京ゴム原料商協同組合の理事長。

10年ほど前から好きだったゴルフは「卒業」し、休日にもつばら「読書とカラオケ」。夫人の久子さんと銀座のカラオケスナックに行くのが楽しみだった。

きつぷのいい江戸っ子だが人柄は温厚篤実。面倒見が良く、取引先の多くの人から慕われた「ゴム人」だった。合掌。

(ラバービュー4)

小菅淑行さんが死去

小菅を有力専門商社に

10年9月4日に小菅前社長の小菅淑行さん（86歳）が死去した。そして偲ぶ会が、11月1日、東京都墨田区の東武ホテルバント東京で開かれた。故人を偲び取引先関係者ら約300人が献花した。

小菅さんは三重県津市出身。昭和20年和歌山高商卒業後上京し、父親である小菅作治郎氏が経営する小菅商会（現小菅、東京都墨田区）に入社した。

昭和30年に社長就任、以来いち早くコンピュータによる販売や在庫管理を導入し、また早くから合成ゴム及び合成樹脂の販売に乗り出すなど、企業規模を拡大した。

平成10年に会長、同16年から相談役を務め会社を見守っていた。取引先から信頼され、頼りにされた実力経営者だった。



(ラバービュー5) 小菅氏を偲び献花 (11月1日、東京墨田区で)

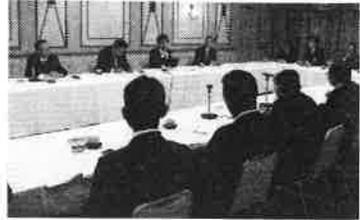
東部商組の商工懇談会

墨東から杉本氏霜田氏

東部工業用ゴム製品卸商業組合の工業用品部会（藤井直行部会長）は10年4月23日、都内の銀座ラファイナートで「商工懇談会」を開催した。

当日は商業組合側から西山理事長や藤井部会長など約20人、メーカー側から日本ゴム工業会、墨東ゴム工業会、葛飾ゴム工業会、日本金型工業会東部支部の4工業会の代表が出席。それぞれ商工の立場から要望などを述べ、広く意見交換した。（写真）

墨東ゴム工業会からは杉本会長、霜田副会長が出席した。両氏は「原材料高騰」による販売価格の改訂を商業者に訴えた。また「加工費や技術費」についても応分に認めたいと要求した。（ラバービュー6）



合成ゴムプラント新増設

国内と海外で相次ぎ実施

リーマン・ショック後の世界的な景気後退により、一時落ち込んでいた合成ゴムの需要が09年下期以降から急速に回復している。

需要先である自動車タイヤ生産の回復に加え、アジア向けを中心とした輸出が順調に推移しているため、この旺盛な需要に対応し、合成ゴム各社が生産能力の増強を国内外で実施している。

SIBRの新増設は、10年7月にJSRが四日市工場の増強を、10月には旭化成ケミカルズがシンガポールでの新プラント建設を決定。11月には住友化学及び日本ゼオンがシンガポールでの増強計画を発表した。

BRでは、宇部興産が中国工場と千葉工場を増強を実施する。EPでは、三井化学が中国のSinoppecと合併で、上海にEPT年産7万5000トンの新設を計画、商業運転開始は14年の予定。JSRは韓国でEPM6万トンの増強を実施する。

(ラバービュー7)

東部ゴム商組主催の

「商品展示会」に参加

東部工業用ゴム製品卸商業組合（西山博務理事長）は10年3月24日、賛助会員と組合員による「商品展示説明会／来て見て学んで明日の糧 P a r t II」を開催した。この展示会に墨東ゴム工業会も参加・出展した。

この説明会は組合員各社の営業担当者や顧客に対して、出品メーカーの最新の商材や情報を提供し、ビジネスに役立ててもらうことを目的に開催するもの。

今回は06年以来2回目の開催で、メーカー33社、組合員14社のほか、日本金型工業会東部支部や葛飾ゴム工業会も出品した。

会場は東京都港区にある東京都立産業貿易センター浜松町館3階展示室。墨東会員企業の商品が多数展示された。



(ラバービュー8) 会員の商品展示 (3月24日)

「中国に対する私の見方3」(終)

中国の経済、そして大連・西安の旅

(株)ポステイコーポレーション 山谷 隆



世界遺産「兵馬俑坑博物館」の内部

私はこの墨東ゴム工業会会報に、

過去2回にわたって(108号、1

11号)「中国に対する私の見方」

と題し寄稿させてもらった。今回は

その最終回として、中国の経済のこ

と、日本のゴム産業との関係、そし

て後半では出張で訪れた大連、観光

で訪れた西安のことなどを書いてみ

たい。

もとより中国の専門家の学術論文

ではない。中国に関心を持つ一市

民、一旅行者の「感想」に近い文章

である。そのつもりで読んでもらえ

れば有難い。

■ GDPで日本を抜く

中国の経済発展はすさまじい。

今年(10年)の中国のGDP(国

内総生産)は約460兆円に達し、

日本を抜き米国に次いで世界第二位

となる。

自動車の生産はとくに世界一に

なっており、年産1800万台以

上。自動車王国・米国が1300万

台、日本が900万台位なのだけ

ら、いかに中国の生産が大きいもの

であるかがわかる。

しかし、こんなことに驚いていら

れない。実は中国の経済規模はこん

なものではなく、本当は公表されて

いるGDPの4倍が真のGDPだ、

という説もある。事実世界銀行の試

算では、購買力平価を考慮すると1

千600兆円以上になると言ってい

る。

私の推測では4倍はオーバーにし

ても、中国の「地下経済」の大きさ

を考えれば公表GDPの2倍はある

のではないかと思っている。つま

り、とくに経済規模では日本を抜

いているのである。

もつとも単純にGDPを比較して

も意味はない。日本とシンガポー

ル、日本とベルギーの経済を比べて

「日本の方がずっと大きい」などと

言ってもしかたがないのと同じであ

る。人口が10倍以上、国土が26倍あ

る国(と言うか漢民族が統治支配す

る異民族集合体)と比べること自体

がナンセンスなのである。

もし比べるなら国民1人当りのG

DPの方がまだ分かる。ちなみに中

国の国民1人当りのGDPは世界の

100位以下であり、最貧国群から

ちよつと頭を出した程度である。

それはともかく中国の経済規模は

今や巨大であり、その成長はさらに

続いている。中国の経済成長率は平

均8〜10%で、これは「改革開放」

が始まった1978年頃から多少の

振れはあるものの一貫して継続して

これから先もあと5〜10年は「高

度成長」が続き、その後安定成長

(又は低成長)の時代に入るような

気がする。

中国はまず鉄鋼、家電、自動車、

衣料品などの大量生産する国有企業

や外資企業、又は合併企業に、独占

的な特権を与え、国際競争力を付け

させた。続いて今は国を挙げて巨額

の社会インフラ投資に走っている。

鉄道、高速道路、港湾、空港、電

力、電話。林立する高層ビルと集合

住宅もインフラである。

中国は企業の猛烈な輸出力と巨額

の投資で経済成長まっしぐら、国自

体がひとつの巨大な会社になって生

産と売り上げを伸ばし続けている。

その経営をしているのが中国共産党

ということになる。これを「国家資

本主義」という。

の変化、人口の高齢化、人々の意識

の変化、政治の不安定(民族問題、

都市と農村の格差、役人の腐敗、民

主化の要求ほか)などによる。

この中でも、経済構造の変化や

人々の意識の変化は、成長に大きく

影響を及ぼすと思う。経済構造はモ

ノ造りの第二次産業から第三次産業

中心に移る。鉄や自動車などのモノ

より、質の良いサービス産業を求め

るようになる。すなわちレジャーや

娯楽、旅行、教育、医療、外食――

ある程度豊かになれば、人は一心

不乱に働いてモノを作ったり買った

りするより、ラクをして遊びたいと

思うようになる。

子供は学習塾に行き、ピアノを習

い、ゲームをやり少年サッカーチー

ムに入る。奥さんは外食しカルチャ

ーセンターに通い、音楽を聞きに行

き海外旅行しブランド物を身に付け

る。亭主はゴルフをやりスポーツ観

戦し、家族サービスに力を入れメタ

が健康診断を受けるようになる。中国人も富めば必ずそうなるのである。

経済人の一部の人は、中国がそうなったとき、つまり第三次産業が台頭し普通の国に変わろうとするときに、日本企業にビジネスチャンスが生まれると説く。

日本企業が持つ高い技術、高品質で安全な商品、優れた生産管理、キメ細かい顧客サービスは、中国が後進国から中進国に変わろうとする時に最も力を発揮するといっているのである。

▼ ▼ ▼ ■ゴム産業の中国進出

中国とわが国ゴム産業について少し述べたい。

日本のゴム企業が中国に進出し始めたのは30年程前からである。最初は簡単な履物業者だった（地下たびなど）。その後スニーカーや長靴、学童履きなどの大手が続くが、やはり履物関係が多かった。

工業用ゴム、とりわけ自動車用ゴム会社が本格進出を開始したのは15年ほど前から。トヨタなど自動車

メーカーの工場進出に合わせ、ホース、防振ゴム類、車体用ゴムシール、油空圧シール部品などの大手が続々と工場を出した。

タイヤメーカーもカントリーリスキの大きさから二の足を踏んでいたが、中国市場の潜在需要の大きさと投資環境の整備により、ブリヂストン、横浜ゴム、住友ゴムなど次々に工場を出した。現在寧波に工場を建設中の東洋ゴムも加えると、全社が中国進出したことになる。

このほかゴム材料の中間製品メーカー（CMB製造）、ゴム材料販売商社、ゴム材料メーカー（合成ゴム、カーボン、ゴム薬品会社）、ゴム機械メーカー、そしてゴム製品販売商社も多数進出している。

このうちゴム製品商社は二次加工部門を持つところが多く、そ

のような会社は現地法人を設立すると同時に加工工場も建てるケースが多い。

現在広い意味でのゴム関係の中国進出企業数は、300社を下らないと推測される（ちなみに中国に進出している日本企業は約2万社）。

一口にゴム会社の中国進出と言っても様々な形がある。中国で作って中国で売る（日系企業に売る）、又は現地企業に売る）、中国で作って日本に売る、中国で作って日本以外の海外へ売る、など。

どの形であれ日本企業のカネと技術で事業を行なうわけであり、リスクを伴う投資である。右も左もわからない異国に、よくも300社も出したものとその決断に感心する。

中国に進出した日系ゴム会社はこれからどうなるのだろうか。これはいちがいに言えない。会社によっては、またどのような分野どのような生産販売の形になっているかによつ

て異なる。

一般的にはトヨタやホンダなど親会社（または主力納入先）に付いて行った企業は、親会社が中国で頑張っている限り大丈夫だろう。

それ以外の工業用ゴム企業（リングやパッキン、ゴムブランケット、自転車タイヤ、各種ゴム電材、建機部品、鉄道部品ほか）も当面は問題がない。中国でのコストはしばらく安いままだろうし、需要も落ちるとは思えない。むしろ多くの企業は増強を進めるだろう。

懸念があるとすれば中国ローカルメーカーの技術が上ってくる5〜10年先である。価格競争で正面からぶつかることになり、日本企業は苦勞するのではないか。

いずれにしても中小企業で中国に出ているところは採算管理をしつかりやらなければならない。先行きの見込みがなければ早い段階での決断（撤退でも縮小でも）が必要であ

る。すでに撤退している例がいくつもある。

▼ ▼ ▼ ■アカシアの大連

2010年4月2日から4日まで中国・大連に行く機会を得た。東京の葛飾ゴム工業会の有志6社が、ゴム製品の「共同展示場」を開くことになり、その取材を兼ねて行くことになったのである。

僕と杉野行雄さん（杉野ゴム化学工業所社長）など計4人で成田を出発した。フライトは全日空午前10時10分発大連行き。

大連は遼東半島の南端に位置する港湾都市である。人口578万人。経済先進地域で「日本に最も近い中国」とも言われる。東京と大阪、北九州の3カ所に事務所を置いている。

大連は歴史的に日本と関係が深い。清朝末期ロシアが租借したが、日露戦争後は日本が直接統治（租

借）するようになった。日本の統治は約40年続き「満州」経営の拠点として発展した。当時の公共建築物（満鉄本社や横浜正金銀行など）が今も残り使用されている。清岡卓行の小説「アカシアの大連」で知られるようにアカシア並木が有名。

大連空港に到着したのは12時15分だった。天気は晴。空気が乾燥している。そんなに寒くない。空港の税関を出ると、今回本社工場の一角を共同展示場用に貸してくれる大連華榮塑膠有限公司の程守新董事長ら3人が出迎えてくれた。すぐに同社の車で市北側の経済技術開発区（要するに工業団地）へ向かう。

午後1時、経済開発区に着く。日本の進出企業が資金を出して建てた「ビジネスセンター」を見学する。大連に進出している日本の一流企業の商品やパネルが並ぶ。意外だったのはいわゆる中小企業の展示も多かった。

大連に進出している日本企業は多い。90年代には2000社を超え中国で一番だった。今は上海に抜かれているがそれでも3000社以上と言われ、経済技術開発区を中心に日系大手企業がひしめく。東芝、三菱、日立、パナソニック、キヤノン、TOTO、リコー、TDK、日本電産――などが大工場を構える。

大連の経済は重工業を中心に活況だ。リーマンショック後も経済は2ケタの伸びを続けている。造船、機械、鉄道車両、石油精製、電気電子などに強い。特に車両や重機械などは昔満鉄の車両工場があった関係からか、高い競争力を持つという。

大連は地理的に日本に近くなじみ（土地勘）がある。海運の便が良くなっている。航空機も直行便が多数運行されている。物流と交通が発達し投資環境が良い。対日感情は良好で、数年前の「反日デモ」騒ぎの

ときも、全くそのような動きはなかった。

ゴム関係で大連地区に工場進出している主な企業はアトライズヨドガワ、エアールオートマツハ、華榮貿易、クリエイトメデック、晃立製作所、倉敷化工、東海ゴム、弘進ゴム、ダイハンなど。

ビジネスセンターを後にし郊外の小さなゴム工場に向う。何でもその社長がゴム用の機械設備を売りたいとか、買いたいとか。3時頃に工場に着く。

事務所棟に入ると社長室に通された。部屋の一角に立派な「布袋様」が鎮座している。布袋は七福神の一つでほおがふつくらとし、ぼうず頭。袋を背負い腹が異様に出ている。「蓄財と長寿」に「利益がある。中国人の好きな神様である。」

工場はざっと見たが日本の昭和20年代の頃の小さな町工場という風だった。

製造しているのは靴底とか簡単な型物、パッキンのようなものなど。工場では30〜40人が働いているようだった。日本製の中古プレスなどが置いてあった。ゴムだけでなく別棟でプラスチック製品も成型していた。

小さなゴム工場を後にしホテルに向かう。ホテルは「ラマダホテル大連」。大連駅のすぐ前に建つ。5時前に投宿。夕食は近くの「万宝海鮮舫」という大連を代表する海鮮料理店へ行った。巨大な店構えで、上野の東天紅を4倍位大きくした料理店である。

僕たちは計8人で2階の個室で食事をした。食材や料理は1階で選ぶ。ズラーと並べられた生け簀（す）や冷蔵ショーケースを見て注文していく。その中にヘビやカエル、カメなどがいたのには驚かないが「オオサンショウウオ」を目にしたときは、さすが中国と妙に感心し

てしまった。

▼中山広場で昔を想う

翌日4月3日、天気は晴。やや肌寒い朝だったが、今日は共同展示場での開所式を行う大事な日である。杉野さん以下、皆さん緊張気味だった。車で約1時間30分かかる大連華栄まで幹線道路を行く。

大連市街を抜けると道路両脇は冬枯れの並木が続く。ときどき川を渡るが水は流れていない。道路の横で車から降りて立ち小便をしている男がいる。平気で道路側であるこっちを向いて用を足している。

小さな通りに馬車が動いているのを見た。道を走る車は少ない。車はなぜかくすんだように見える。ドロを落としていない車も多い。車をきれいに使おう、という感覚があまりないのだろうか。

10時すぎに現地に着。11時から式が始まり、杉野さんや程董事長の

挨拶などが続き、テーブルカットが行なわれた。日本酒で乾杯し爆竹の音が祝典を盛り上げた。

余談だが中国で正月など祝いの時に爆竹を鳴らすのは、その音で邪気を驚かし追い出すためである。つまり厄払い。昔は火薬がなかったのに竹を火中に投じはじけさせた。「破竹の勢い」はここから来ている。

式典を終え午後3時に再びホテルに戻った。夕方の食事まで時間があるので、ホテル近くの中山広場や大連駅を散策した。

中山広場は市の中心部にあり日本が統治していた頃の建物（官公庁）が広場を囲んで立ち並ぶ。大連賓館（旧ヤマトホテル）や中国銀行（旧朝鮮銀行）郵政局（旧関東通信局）などが昔の建物のまま使われている。

大連賓館に入って2階の喫茶店でコーヒーを飲んだ。美人の女性店員が大連の歴史写真集を買うように勧

められた。写真集は断り、絵ハガキセットを買う。そしてコーヒー代40元、絵ハガキ代50元を払い店を出た。

大連駅に行った。日本の上野駅をモデルに満鉄が建てたものである。確かにほぼ形は同じだ。駅構内は人でごった返している。日本の昭和30年代的な雰囲気を感じた。

駅前広場は車と人人人。露路には串焼き屋や雑貨の露店。衣服を売る店。三輪車をよく見る。路面電車が数分おきに走る。古い。日本が統治していた頃の車両をそのまま使っている。

私は異国の街をさまよい歩くのが好きだ。ゆつくり露店や夜店をめぐり、飲食店、デパートを見て回る。リングを買ってホテルに戻った。

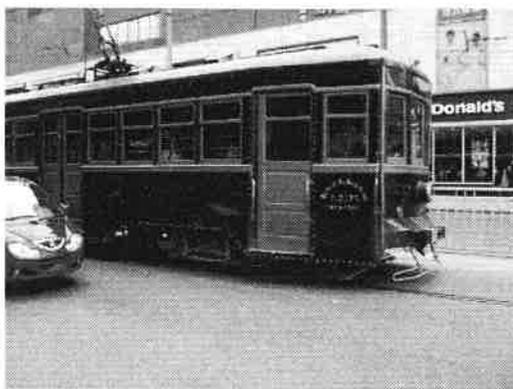
食事の後、車で10分程で行ける飲み屋街に向かう。日本人相手の店へ入る。ホステスさんが10人程。訊けば出身は大連だけでなく、ハルビン



大連は港町、海鮮料理用のイケス



大連市「中山広場」の大連賓館（右）



今も走る日本統治時代の路面電車



三輪車を見ることは珍しくない



少し郊外へ行くとまだ馬車が使われている



大連駅の露地で串焼きを売る店



させられるとか給与カットとか、昇進できないとか。だから政策はかなり守られている。

ただ農家の場合は1人目が女であれば2人目を生んでも良いらしい。また、裏ではカネさえ積みば例外もあるようだ。いずれにしても将来中国は超高齢社会になるのは間違いない。

夜は西安名物の火鍋料理を食べた。レストランには外国人団体旅行者（アメリカとかヨーロッパの人）が大半で、日本人は私たち位のものだった。

ツアー3日目は「書院門古文街」「南の城門」「陝西省博物館」「大雁塔」「青龍寺」を回り、夜は西安名物の「水餃子」を食べ、唐の時代の舞踊ショーを見た。

午前中は小雨模様。城壁から見る雨に煙る西安（昔の長安）は風情があった。そう言えば中国の街はみんな城壁

都市だが、今は北京や南京など主要都市は全て城壁がとり壊されてしまった。西安だけがかるうじて残っているという（明代のもの）。

西安は3千年の都であり、シルクロードの出発地でもある。街の中心に鐘楼が残り、その西側に中国化したイスラム系住民（回族）が住む通りがある。その通りを西に向かえば「西域」である。いつかは蘭州酒泉敦煌トルファンなどを訪ねてみたいと思った。

井上靖や陳舜臣などの小説やエッセイの影響で西域と言う響きにロマンを感じてしまう。中国人に言わせると「西域？何もないですよ。きたないですよ」で終わりだそうである。

この日回った観光地のことや印象を書きたいが紙数がなくなった。残念だが割愛したい。

中国の旅はどこか懐かしい。でき

れば都市だけでなく田舎を回りたい。

ひなびた農村、山村、少数民族の村。珍しい食べ物や地方の音楽も聞きたい。歴史の跡をたどってみたい。家内と二人で元気なうちに帰ってみるつもりでいる。

（2010年12月）





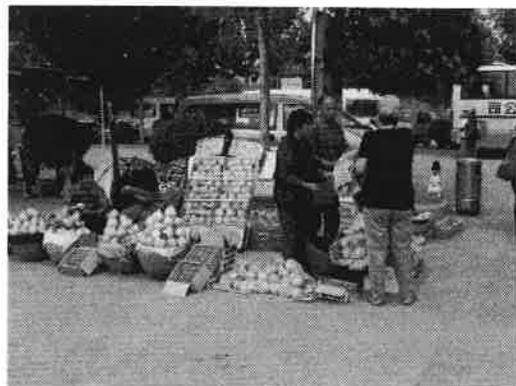
何千体という兵や馬の等身大素焼きの陶器（兵馬俑坑）



書院門の古文街通り



西安の南門を城壁の上から



西安名物の「石欄」売り（華清池で）



古文街通りの裏道で見た少女



城壁から見た雨に煙る西安の古い街並み

ゴム抜き型用プレス 協和商事が販売へ

ゴム資材販売の(株)協和商事(柿崎弘社長)は、ゴム抜き型用自動油圧プレス(Yume-280)の販売を開始した。製造元は梅津製作(東京都葛飾区)。金型で加硫成形したゴムから製品だけを自動で打ち抜くプレスで、要望により抜くための金型もセットで提供する。抜き型作業を省力化する合理化機械として販売していく。

この自動プレスは4本柱タイプの構造。油圧で作動する。標準タイプは150ミリ角から280ミリ角まで対応可能。上下ストロークは200ミリ。

誰にでも使い易く、省エネ性にも優れる。移動自由なキャスター付。本体価格は約170万円(標準仕様)、リースも可能。納期は1カ月以内。



(ラバービュー9)
抜き型作業を大幅に自動化

世界のゴム消費量に異変 中国、インド、ブラジル台頭

IRSGという世界のゴム生産動向を調査している機関がある。本部はロンドン、日本名で「国際ゴム研究機関」という。この機関が半年に1回世界のゴム生産量を公表しているが、それによると世界一のゴム生産国(新ゴム消費量)はご承知のように中国である。その量約580万トン。2位は米国260万トン、3位は日本170万トンという順になる。

昔は常に米国がトップ、次が日本で3位がドイツだった。月日は流れ年が移り、今は中国がダントツの一番となっている。ただしこの調査には異論も少なくない。中国をはじめとした新興国の報告数字は「おかしい」というのだ。確かに統計調査の整備が遅れているので信憑性に疑いがある。が、仮に3割5割、水増ししていてもトップの座はゆるがない。時代は変わったのである。

ちなみに3位以下では、インド、ブラジル、ドイツ、タイの順位となっている。

(ラバービュー10)

墨東ビデオクラブ第10回

「クレイジー・ハート」

50過ぎたカントリー歌手が主人公の、大人のための娯楽映画。主演はジェフ・ブリッジス。劇中、吹き替えなしで味な歌いっぷりを披露し、見る者を唸らせる。10年度アカデミー賞主演男優賞及び主題歌賞を受賞。

主人公の歌手は昔はスターだったが今は地方を下サ回りに食っている身。離婚もした。栄光の日々は去り、場末のボーリング場やライブハウスを転々とする。しかも酒びたり。だが歌の実力は本物だし、昔出したヒット曲も多い。ファンのおぼさんともホテルで一夜を過ごすのが気晴らし。殺伐とした日常と言えなくもない。

郷愁を誘うカントリーの調べ

そんな主人公の前にシングルマザーの新聞記者が現れる。この女性と愛し合うようになり、主人公は新たな出発を望むようになる。だが人生をやり直そうと決意はしたが、思わぬ事故や気持ちの行き違い、考え方の差などでスナナリとはいかない。人生は簡単にいかない。

アメリカ南部のさびれた街を、一人車で旅をする主人公。孤独な心象と南部の風景が重なり、そこに懐かしさを誘うカントリーの調べが流れる。

落ちぶれたシンガールの魂の再生の物語、と言ってはおかげさ

だが、満たされぬ心の喪失感を断ち切り

真の人生を歩もうとする姿に心打たれる。

浮き沈みの激しい人生を、味のある演技とシャレたセリフで上手に演じるジェフ・ブリッジスに乾杯。音楽も良い。



(編集部)

■2010年8月6日 納涼会、31名が参加（浅草の鰻料理「小柳」）



キレイどころを呼んで江戸情緒を楽しむ



堀田副会長があいさつ



杉本会長のあいさつ、短いのが好評



宴たけなわ、それにしても暑い夏でした



右川前会長のあいさつ、長い間ご苦労様でした

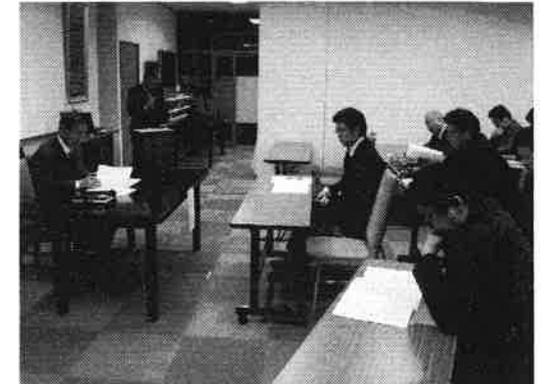


水谷さん（右）と森田さん（左）

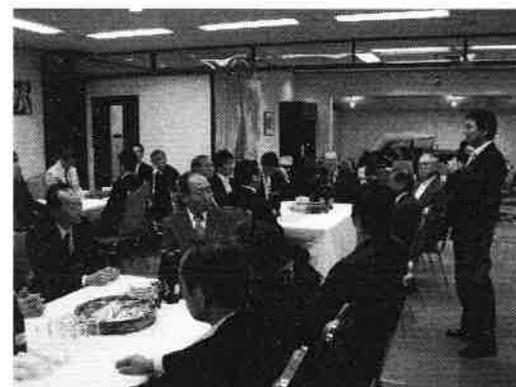
■2010年4月22日の通常総会 杉本さんが新会長に選任される



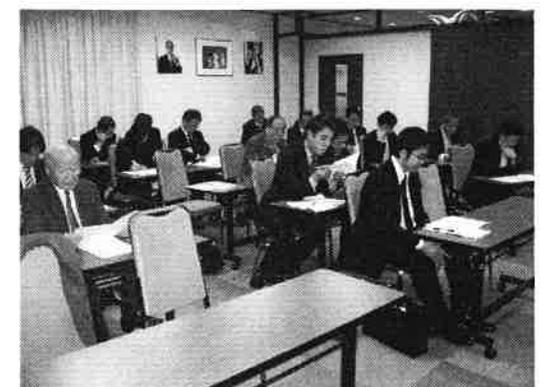
杉本新会長のもとで事業計画などを審議



右川前会長が議長となり総会を開催



懇親会であいさつする杉本新会長



年に1回の総会は出席者も多い



長瀬元会長から激励のあいさつをいただく



アルコールも入り話がはずむ

事務局報告

(二〇一〇年一月)
(二〇一〇年十二月)

■平成二十二年一月二十二日

新年会 浅草 グルメ大善
三遊亭円遊師匠、神田ひまわりさん
会員及び賛助会員 計三十一名参加

三月四日 ベルアビス会議室
理事会

右川清夫会長ほか10名出席

三月二十四日 都立産業貿易センター
東部商組「商品展示会」に参加
右川清夫会長ほかブースで説明

四月八日 ベルアビス会議室

監査会

右川清夫会長、杉本浩志副会長ほか
5名出席

四月二十二日 ベルアビス会議室

平成二十二年度定時総会

決算、予算、事業計画等報告及び承

認の件

新会長選任の件(杉本浩志氏が新会
長に就任)

総会後 (株)ヘルスイノベーション代
表・管理栄養士の弥富秀江先生の講
演 演題「メタボリックシンドロ
ムの予防」

総会、講演会終了後に、懇親会開く

四月二十三日 銀座ラフィナート
東部商組「商工懇談会」
杉本会長、霜田副会長が出席

六月三日 ベルアビス会議室

役員会

杉本浩志会長ほか八名出席

七月十五日

講演会 講師 濱田裕先生 演題「歴
史に学ぶゴム工業の実学」
会員、賛助会員計三十一名出席

八月六日 ベルアビス会議室

役員会 杉本浩志会長ほか十名出席

八月六日

納涼会 浅草鰻料理「小柳」
杉本浩志会長ほか計三十一名出席

九月十七日 ベルアビス会議室

経営セミナー (株)クラスモア 森久美
子先生による講演「愛に基づく営業に
ついて」

九月二十九日

ゴルフ会(葛飾ゴム工業会と共同開
催)

杉本浩志会長、霜田知久副会長ほか
有志七名参加

十月十四日 ベルアビス会議室

役員会



杉本浩志会長ほか十名出席

十月十八日 ベルアビス会議室

編集会議

右川清夫前会長、杉本会長、木島編
集委員ほか五名出席

十二月九日 割烹「とんぼ」

役員会

杉本浩志会長ほか十一名出席

忘年会
杉本浩志会長ほか計二十九名出席



杉本会長が講師(森先生)を紹介



9月17日「愛に基づく営業」講演



熱心に話を聞く参加者



OHPを使ってわかり易く愛を説く

▽……毎年暮れに発表される「今年の漢字」、昨年は「暑」であった。まさに酷暑、ゴム屋泣かせの夏。百数十年で一番暑かったのだから、もうこれほどの夏は当分来ないと見るか、温暖化でこれからはいつもこんな夏になると見るか……是非前者であって欲しいと切に願うものである。

(木島)

▽……各地で豪雪、時化等寒波が襲来しているこの厳しい冬。カイロや暖房器具の売れ行きがいい中で今注目を集める湯たんぽ、腹巻、こたつ。我々日本人の先輩方のアイデアは、シンブルだが確実かつ的確な効果を生み出す。またエコロジーであり、そのイメージとも重なり優しい温もりを与えてくれる。改めてその発想力の豊かさと独特の感性に感心すると共に、自分の仕事や暮らしの中においても先端の技術に加え、古き良きものも大切にしていこうと考える。

(青山)

▽……ペランダの鉢植えブルーベリーが、昨年の夏は不作だった。今までずいぶん獲れていたのだが。また同じ鉢植えのリンゴや柚も実りが少ない年だった。夏の猛暑が関係しているのか、寿命なのか。

毎年変らないと思っていることが、ある時から不意になくなることもある。いつまでもあると思うな親とカネ、か。年々歳々花あい似たり、だが人は同じからずである。

「花に嵐のたとえもあるぞ、さよならだけが人生だ」。この言葉が身にしむ歳になってきた。2011年はどんな年になるのか。

(Y)

第一一三号

(第四十九卷 第一号)

発行 平成二十三年一月十五日

発行人 杉本浩志

編集人 墨東ゴム工業会編集委員会

発行所 東京都墨田区墨田二一三十六十号

墨東ゴム工業会

事務局電話〇三(三六一四)三五〇一(代)

印刷所

有限会社うぬまプリント

東京都墨田区八広六一五六一六

電話三六一二一四二二五(代)



天然ゴム・各種合成ゴム・ゴム工業薬品全般
CMB設計、販売、ゴム用機械(輸出入)。

ISO 9001:2008取得 宝来ゴム加工株式会社
ISO 9001:2008取得 FUKUWA GOMU(M) SDN.BHD

<p>福和ゴム商事株式会社 〒116-0003 東京都荒川区南千住3-12-2 TEL: 03-3806-5811 FAX: 03-3806-5817 http://www.fukuwa-rb.co.jp e-mail: info@fukuwa-rb.co.jp</p>	<p>精練部門(生産能力300t) 宝来ゴム加工株式会社 〒347-0108 埼玉県加須市戸崎308-12 TEL: 0480-73-2213 FAX: 0480-73-1439 e-mail: hgk@giga.ocn.ne.jp</p>	<p>FUKUWA GOMU (M) SDN.BHD (生産能力600t) 27&29 Jalan5 Kelang Central Industrial Off Jalan Kapar, Batu5, 41400 Klang, Selangor Darul Ehsan, Malaysia TEL: 03-32901366 FAX: 03-32901369 e-mail: fukuwa@streamyx.com 生産品目: OBストリップ、クッションガム、その他 工業品練り</p>
---	--	--



墨東ゴム工業会賛助会員 下段はEメール・URL扱い品目

(上段 TEL)
(下段 FAX)

旭カーボン 株式会社 eigy@asahicarbon.co.jp	〒103-0023 中央区日本橋本町2-4-12	3241-6075	カーボンブラック製造販売	イズミビルディング6F	3241-0509
株式会社 エラストミックス	〒105-8640 港区東新橋1-9-2	6218-3790	CMB製造販売	汐留住友ビル	6218-3793
加藤産商 株式会社	〒103-8228 中央区日本橋兜町21-7KATOIHIビル	3668-8891	天然ゴム、合成ゴム、ゴム薬品、CMB、ゴム用機械販売		3668-9444
株式会社 加藤事務所 http://www.ruber.station.com	〒103-0026 中央区日本橋兜町11-7	5645-8670	合成ゴム、ゴム薬品、CMB、ゴム用機械販売		5645-8671
川茂 株式会社 inho@kawamo.co.jp http://kawamo.co.jp/	〒102-0075 千代田区三番町24-3	6825-1400	ゴム工業薬品、補強充填剤、発泡剤他	三番町MYビル	5213-1600
株式会社 協和商事 kaneko@kyowa-tr.co.jp	〒116-0013 荒川区西日暮里1-19-13	3891-8511	合成ゴム、ゴム薬品、CMB販売		3807-2009
小菅 株式会社 service@kosuge-jp.com http://www.kosuge-jp.com	〒131-8585 墨田区東向島2-33-2	3619-8811	合成ゴム、ゴム薬品、CMB販売		3619-0055
株式会社 近藤七郎商店	〒131-0041 墨田区八広3-20-5	3611-6195	合成ゴム、ゴム薬品、CMB販売		3612-6617
株式会社 サンケムテック sunchem@giga.ocn.ne.jp	〒111-0036 台東区松が谷1-9-10マテックス第2ビル10F	3847-9971	ゴム、合成樹脂、ゴム用、樹脂用配合副資材の販売		3847-9975
三洋ゴム工業 株式会社 ishii@sanyo-rubber.co.jp	〒114-0032 北区中十条3-31-14	3908-5234	CMB、カスタムパッチ、FMB		3908-7222
精工化学 株式会社	〒101-0048 千代田区神田司町2-6	3254-2771	有機ゴム薬品(老化防止剤)製造販売	荒木ビル2F	3258-1431
ダイキン工業 株式会社	〒108-0075 港区港南2-18-1	6716-0432	合成ゴム(ふっ素ゴム)離型剤製造販売		6716-0232
大丸産業 株式会社	〒131-0032 墨田区東向島3-17-8	3614-3311	天然ゴム、合成ゴム、CBM販売		3614-0082
株式会社 ダイハン tokyo@daihan-net.co.jp http://www.daihan-net.co.jp	〒146-0095 大田区多摩川1-18-3	3759-2321	ゴム用機械製造販売		3758-8511

墨東ゴム工業会賛助会員 下段はEメール・URL扱い品目

(上段 TEL)
(下段 FAX)

電気化学工業 株式会社 010261@denka.co.jp http://www.denka.co.jp	〒103-8338 中央区日本橋室町2-1-1	5290-5550	合成ゴム(CR)カーボンブラック製造販売		5290-5400
東ソー 株式会社 rubber@tosoh.co.jp http://www.tosoh.co.jp	〒105-8623 港区芝3-8-2	5427-5146	合成ゴム(CR、CSM)製造販売	芝公園ファーストビル	5427-5210
日本サブ化工 株式会社	〒131-0042 墨田区東墨田2-11-12	3611-1852	ゴム用サブ製造販売		3611-1931
J S R 株式会社 http://www.jsr.co.jp	〒105-8640 港区東新橋一丁目9番2号	6218-3500	合成ゴム(SBR、NBR、EP、BR、IR、ブチル)製造販売	汐留住友ビル	6218-3682
日本ゼオン 株式会社 http://www.zeeon.co.jp	〒100-8323 千代田区丸の内1-6-2	3216-2332	合成ゴム(SBR、NBR、BR、IR)製造販売	新丸の内センタービル	3216-0501
J S R トレーディング 株式会社	〒105-8640 港区東新橋1丁目9番2号	6218-3800	合成ゴム、ゴム用試験機販売	汐留住友ビル	6218-3815
株式会社 ハクタ商会 k-hakuta@hakuta.co.jp	〒131-0031 墨田区墨田4-40-10	3614-3870	合成ゴム、ゴム薬品、CMB販売		3617-6126
福和ゴム商事 株式会社 fgs@fukuwa-rb.co.jp http://www.fukuwa-rb.co.jp	〒116-0003 荒川区南千住3-12-2	3806-5811	天然ゴム、合成ゴム、CMB販売		3806-5817
ミクロ電子 株式会社	〒350-0833 川越市芳野台2-8-25	0492-23-0396	UHF連続加硫ライン製造販売	川越東部工業団地	0492-25-7166
山下商事 株式会社 y-hideki@yamashita-sj.co.jp	〒131-0031 墨田区墨田5-47-17	3619-0066	合成ゴム、ゴム薬品、CBM販売		3619-0829

(平成22年12月現在)

墨 東 ゴ ム 工 業 会

企 業 名	代 表 者	工 業 会 員 名 役	所 在 地	電 話
㈱青木エポナイト製造所	青木幸雄	理 事	〒131-0041 墨田区八広6-35-1	3611-1141
㈱右川ゴム製造所	右川清夫	顧 問	〒340-0834 埼玉県八潮市大曾根290	048 995-7481
オーディオゴムテクニカル㈱	石川明宏		〒131-0031 墨田区墨田2-35-5	3612-5678
㈱角屋ゴム工業所	角屋 明		〒131-0042 墨田区東墨田2-22-1	3618-0984
金星ゴム工業 ㈱	杉本哲夫 杉本浩志	相 談 役 会 長	〒131-0041 墨田区八広5-3-4	3619-0561
木島ゴム工業 ㈱	木島 敦	理 事	〒131-0041 墨田区八広2-29-11	3617-7550
協伸ゴム工業 ㈱	高野悦雄		〒341-0041 三郷市花和田21-9	048 952-0111
埼 光 ゴ ム ㈱	加藤文男		〒104-0032 中央区八丁堀1-4-2 加藤産商ビル	3297-1541
㈱シバタ東京工場	毛塚政一郎		〒261-0002 千葉市美浜区新港212-1	043 244-5430
霜田ゴム工業 ㈱	霜田知久	副 会 長	〒343-0851 越谷市七左町5-16	048 988-3731
昭和ラバー化学工業 ㈱	関谷佳一		〒130-0041 墨田区八広6-6-10	3611-1433
㈱伸光ライフサポート	中川雄介		〒103-0015 中央区日本橋箱崎町42-1 東京シティターミナルビル2F	5623-0623
大 日 ゴ ム ㈱	中村賢治郎		〒130-0013 墨田区錦糸4-18-7	3624-1721
㈱田中ゴム製作所	田中良幸 田中昭二	監 事 相 談 役	〒131-0032 墨田区東向島6-62-3	3614-0450
タイセイポリマー ㈱	藤本 保		〒131-0041 墨田区八広6-10-9 オクスレジデンス1F	3619-0019
大 同 化 成 ㈱	永山一佳		〒285-0802 佐倉市大作2-7-1	043 498-2300

会 員 名 簿 (1)

(平成22年12月現在)

F A X	生 産 品 目	E メール・U R L
3617-9547	工業用品一般ゴム、エポナイト製品一般、合成樹脂製品	aokieb@nifty.com
048 997-2431	押出製品、自動車用部品、工業用部品、産業用資材 プレス製品、産業用部品、農業用部品	http://www.ukawa-rubber.co.jp E-mail:rukawa@nifty.com
3612-5655	オーディオ用駆動ベルト、OA機器用・プラテンロール、 工業用ゴム部品	
3618-0966	工業用ゴム製造販売	
3619-0564	工業用、医療用、ゴム製品製造	kinsei@kin-sei.co.jp http://www.kin-sei.co.jp
3613-1156	金型プレス成型品、各種ゴム及びスポンジ、ウレタン、 シリコンその他ゴムのロール及びライニング、各種チ ューブ、管類、紐類、刃型抜きパッキング類、裁断、 切削、接着等、ビニール、ポリエチレン等	kijima@sakura-catv.ne.jp
048 952-0112	工業用ゴムパッキン	a38ksg@jn4.so-net.ne.jp
3297-1552	カーボンマスターバッチ	
043 238-2361	押出製品、プレス型物、マキムシ、ロール製品	
048 988-3732	球技用ボール、チューブ、工業用ゴムシート、押出製品	koshigaya@shimoda-g.co.jp http://www.shimoda-g.co.jp
3610-1433	工業用ゴム製品ほか	
5623-0624	合成ゴム、CMB、シリコンゴム販売、金型製造、 ゴム製品製造販売	E-mail:info@shinko-ls.co.jp
3624-7925	製靴用ゴム底、工業用ゴム製品	
3614-1313	工業用ゴム製品、押出し製品、巻蒸し製品	tanaka-rubber@ceres.ocn.ne.jp
3610-2300	シリコンゴム、シリコンスポンジ押出	info@taiseipolymer.co.jp http://www.taiseipolymer.co.jp
043 498-2381	押出ゴムパッキング類	

墨 東 ゴ ム 工 業 会

企 業 名	代 表 者	工 業 会 員 名 役	所 在 地	電 話
東京ファブリック化成(株)	青山 英雄	理 事	〒120-0022 足立区柳原2-17-10	3870-2161
(有)東伸ゴム工業所	毛利 寿男	理 事	〒131-0041 墨田区八広4-8-17	3619-5221
ナガセケンコー(株)	長瀬 二郎 長瀬 泰彦	名誉会長 副 会 長	〒131-8520 墨田区墨田2-36-10	3614-3501
ヒノデワシ(株)	菅谷 満良 菅谷 光子	相 談 役	〒131-0032 墨田区東向島1-7-8	3619-0456
ホッティーパーリマー(株)	堀田 従革 堀田 秀敏	相 談 役 副 会 長	〒131-0032 墨田区東向島4-43-8	3614-4100
堀川護謨工業(株)	堀川 英則	理 事	〒131-0041 墨田区八広6-15-8	3612-2186
(株)三巴ゴム工業所	熊谷 直信		〒301-0852 竜ヶ崎市向陽台2-1-1 つくばの里工業団地内	0297 64-3011
(株)水谷化学工業	水谷 守弘	理 事	〒300-1312 稲敷郡河内町 大字長竿通前1649	0297 84-2296
(株)三浦ゴム製作所	三浦 広之		〒124-0011 葛飾区四つ木2-14-6	3694-6600
(株)モリタゴム	森田 一博	監 事	〒120-0005 足立区綾瀬7-2-27	3605-8633
(株)モリヤ	森谷 正義		〒131-0041 墨田区八広4-47-8	3617-6540
(株)森清化工	毛利 準作		〒131-0041 墨田区八広1-30-9	3618-5555
(有)八幡ゴム工業所	石川 順一		〒131-0041 墨田区八広1-39-13	3611-0463
山崎化学工業(株)	山崎 善弘		〒131-0031 墨田区墨田3-19-11	3619-6677 ～8

会 員 名 簿 (2)

(平成22年12月現在)

F A X	生 産 品 目	E メール・URL
3882-8275	橋梁用工業用品、土木・建築用品、鉄道軌道用品	aoyama@ftkasei.co.jp www.ftkasei.co.jp
3619-5223	自動車用ゴム部品、下水道用品、パッキン	
3614-0730	ゴムボール、ゴム運動用品	
3612-2155	消ゴム、プラスチック字消、印材ゴム	info@hinodewashi.co.jp http://www.hinodewashi.co.jp
3614-4162	自動車・工業用押出ゴム製品	hotty@hotty.co.jp http://www.hotty.co.jp
3619-0117	工業用ゴム製品	horikawa-gomu@eagle.ocn.ne.jp
0297 64-7300	サッシ用ゴム、エアタイト材、工業用ゴム製品	
0297 84-2297	スポンジ成型品、押出品	info@e-sponge.com http://www.e-sponge.com
3694-6400	工業用押出しゴム製品	
3628-3544	自動車部品、レジャー用、建築用、弱電用ゴム、カーボンマスターバッチ	morita@01.246.ne.jp
3616-6684	工業用ゴム製品(各種パッキング、長尺スポンジ、ゴムロール、防振ゴム他)、ウレタンフォーム、工業用樹脂製品	
3618-5566	オーリング	
5630-6252	カーボンマスターバッチ	u-yawata@mbj.nifty.com
3616-2305	工業用ゴム製品	

ゴム薬品
 カーボンブラック
 合成ゴム・シリコン・フッ素ゴム
 ゴム練り加工

株式会社 ハクタ商会

代表取締役 白田一夫

〒131-0031 東京都墨田区墨田4-40-10
 TEL 03-3614-3870~4
 FAX 03-3617-6126
 東京都葛飾区四ッ木1-8-7
 TEL 03-3693-4042

**ゴム・プラスチック工業用
 原材料副資材**

住友化学合成ゴム エスプレン EPDM#CMB
竹原ゴム加工 各種MB
正同化学工業 各種亜鉛華
信越シリコン 東レシリコン
各種ゴム薬品
ISO 9001 ISO 14001 http://www.kyowa-tr.co.jp

株式会社 協和商事
 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里1-19-13 電話03(3891)8511(代)

国際化の推進 **SK** 創業 98 年

ゴム精練加工

天然ゴム

高機能樹脂

ゴム工業薬品

加硫用硫黄

合成ゴム各種

ゴム用機械

発売元 **加藤産商株式会社**

本社 東京都中央区日本橋兜町21-7
 KATO・IHIビル
 電話 (03) 3668-8891(大代)
 FAX (03) 3668-9444

大阪支店 電話 (06)6263-7631(代)
 名古屋営業所 電話 (052)561-1358(代)
 広島出張所 電話 (082)228-4220
 九州営業所 電話 (0492)39-7230
 岡山出張所 電話 (086)226-1175

海外拠点
 マレーシア・タイ・アメリカ(ニューヨーク、アクリン、ナッシュビル)・中国(上海、広州、嘉興)・ロシア

●ゴム・プラスチック Material
 ●建材・繊維・紙
 ●化学品・工業用部材
 ●その他各種材料・製品

●性能評価
 ●品質評価
 ●トラブル対策
 ●受託研究
 ●安全性試験

●物性測定
 ●熱分析
 ●有機分析
 ●無機分析

CERI 財団法人 化学物質評価研究機構
 Chemicals Evaluation and Research Institute, Japan
 URL : <http://www.cerij.or.jp>

東京事業所 〒345-0043 埼玉県北葛飾郡杉戸町下高野1600 ☎0480(37)2601
 大阪事業所 〒577-0011 東大阪市荒本北1丁目5番55号 ☎06(6744)2022
 名古屋試験所 〒466-0858 名古屋市昭和区折戸町4-1 ☎052(761)1185
 その他事業所 日田・久留米

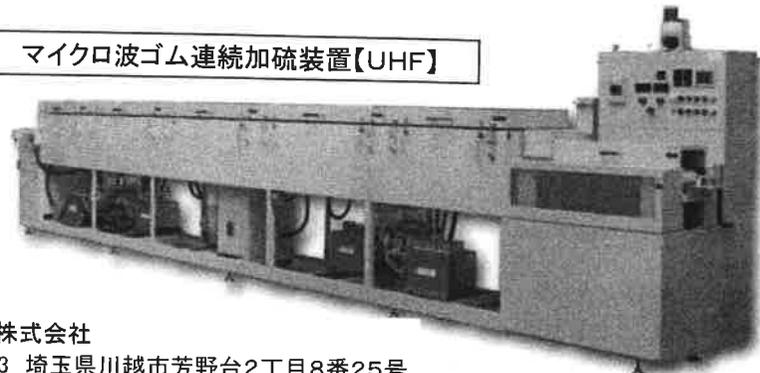
Micro Denshi Co.,Ltd.

信頼される技術と顧客サービス

マイクロ電子のマイクロ波連続式ゴム加硫装置は国内トップシェアを誇るNo.1ブランドです。

海外でも高い評価を得ており、中国、東南アジア、北米を中心に世界

マイクロ波ゴム連続加硫装置【UHF】



マイクロ電子株式会社
〒350-0833 埼玉県川越市芳野台2丁目8番25号
TEL:049-223-0396 FAX:049-229-3016
URL: <http://www.microdenshi.co.jp/>
E-mail: eigyo@microdenshi.co.jp

各種テスト機設置
サンプルテスト

GOOD COMMUNICATION KOSUGE

合成ゴム

ニポール セットポール
(日本ゼオン)
ノーソレックス

合成ゴム

三井EPT
(三井化学)
スカイブレン®
(東ソー)

オレフィン系

熱可塑性エラストマー
ミラストマー タフマー
(三井化学)

ふっ素ゴム

ダイエル
(ダイキン工業)

カーボンブラック

ニテロン HTC
(新日化カーボン)
旭カーボン
(旭カーボン)

MTカーボンブラック

サーマックス MT
(キャンカーブ)

各種合成ゴム ゴム配合薬品
高分子工業材料 (オレフィン系プラスチック・エンジニアリングプラスチック)

小菅株式会社 〒131-8585 東京都墨田区東向島2-33-2
☎03-3619-8811(代) FAX03-3619-0055

”困った”をスムーズに解決!

～ゴム・樹脂・配合の技術と実績～

・合成ゴム 各種

・シリコンゴム

・カーボンマスターバッチ
技術・配合サービス

・各種ゴム成型・印刷

・その他ゴム関連製品



・合成樹脂

・ポリマー粉碎事業

・生活雑貨

・製品共同開発・製造

・輸入製品取扱



山下商事株式会社

ISO9001

〒131-0031 東京都墨田区墨田5丁目47番17号

TEL:03-3619-0066

ISO14001

FAX:03-3619-0829

URL:<http://www.yamashitagroup.jp/>

株式会社白井シーエムピー 〒270-1402 千葉県白井市平塚2632-18

株式会社白井ポリマー 〒270-1402 千葉県白井市平塚2653-1

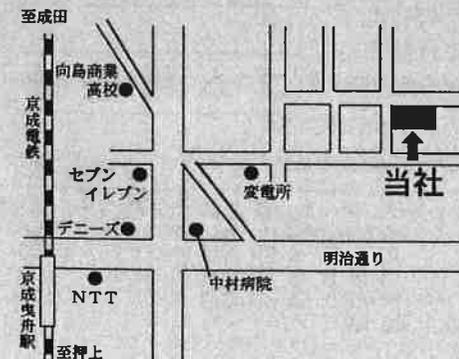
白井ポリマー応研 〒372-0801 群馬県伊勢崎市富子町3500-11

株式会社ダブリュー・アイ・アール 〒309-1451 茨城県桜川市西小塚1855-6

天然ゴム・合成ゴム・可塑剤・軟化剤
カーボンブラック・化学工業薬品・ゴムマスターバッチ他

創業70年の実績

迅速な対応と技術サービス



麩全近藤七郎商店

代表取締役 近藤孝一郎

〒131-0041 東京都墨田区八広3-20-5

TEL 03-3611-6195

FAX 03-3612-6617